

3 各事務室報告

3.1 図書館総務事務室

図書館総務事務室は、事務分掌内規に基づき教育・研究計画書、自己点検・評価、4図書館運営の調整、図書や雑誌等の調達・受入・整理・登録・除籍、刊行物発行、図書館システム管理・運用、図書目録、統計調査、委員会等の会議運営、業務委託・電子資料等の契約、予算の要求・経理・決算、そのほかの庶務等を分掌する。理事会・学部長会等審議案件の上程、調達依頼等の学内手続き、学外関連団体との渉外業務等も担当している。

特色あるコレクションのうち、大岡信コレクションについて、2021年度に策定した整理計画に基づき図書の整理を行った。

また、図書館システム担当者及びメディア教材を扱うメディアライブラリーのあり方について、情報メディア部から人員・業務統合の提案がなされたが、7ヶ月間におよぶ検討協議の結果、統合は見送ることとした。しかし、このことにより、システム担当者が図書館部門に配置されていることの意義を改めて認識するとともに、人材確保を継続するための業務整理の必要性が浮彫となった。

このほか、当事務室が担う業務として、マンガ図書館関係業務がある。2009年度から明治大学東京国際マンガミュージアム(仮称)設置計画に関する事務、その先行施設として米沢嘉博記念図書館と現代マンガ図書館の運営、マンガ図書館運営委員会の事務局を兼務している。2019年度まで別々の場所で運営していた米沢嘉博記念図書館と現代マンガ図書館であったが、2020年度末に学内において2館の複合的運用を開始した。2021年度は、開館運営を行いながら、より良い運営方法を模索し、利用サービスを行った。

(1) 目録・装備業務委託

目録・装備委託業者は2010年度に切り替わり12年目を迎えた。毎月定例会を開催し、実績報告・業務効率アップ・品質維持向上等について協議している。業務委託を継続することによりスキルが安定・向上し、新刊書だけでなく特色あるコレクション整理の戦力となっている。2020年8月に行われたCAT2020の施行により様々な目録ルールの変更や調整があったが、本学のマニュアル改訂も整い徐々に安定してきている。

2021年度は、昨年度に引き続き冊子体新刊図書の購入冊数が減少傾向にあった。そのため代替作業として大岡信文庫の重複調査・目録作成・装備を行った。

(2) 特色あるコレクションについて

●大岡信文庫

2017年1月、大岡信ことば館(静岡県三島市)の閉館にともない大岡信元法学部教授の旧蔵書約26,000冊の寄贈の申し入れがあり、特色あるコレクションとして受入することを決定した。

7月に正式名称を大岡信文庫と定めて整理を開始し、計3,015冊(和書2,730冊・洋書285冊)の目録作成・装備を行った。文庫の配置場所が未定のため、目録作成・装備済の図書はリバティタワー19Fと20Fの空き教室に一時保管している。

2022年度も継続して目録作成・装備を行う予定である。

●ダンテ『神曲』1481年初版(091.3/979/H)

The Polonsky Dante Project への協力

2021年4月、Consortium of European Research Libraries (CERL)のSecretaryを務めるChristina Dondi博士から連絡があった。ダンテ没後700年を記念し、「神曲」1481年初版本のデータベースを作成するプロジェクト(The Polonsky Dante Project)を進めており、本学所蔵本(2008年度特別資料として購入)についての情報提供を依頼する内容であった。石黒太郎商学部教授にご協力をいただき先方と複数回のやり取りをし、本学所蔵本の書誌情報は英国図書館が提供するインキュナブラの世界所在目録データベースIncunabula Short Title Catalog (ISTC)に掲載され、CERLのMaterial Evidence in Incunabula (MEI)に来歴も公開されることとなった(以下URL参照)。

<https://data.cerl.org/istc/id00029000>

<https://data.cerl.org/mei/02141400>

「神曲」1481年初版本は現在、ヨーロッパ、アメリカ、日本、ブラジルの135の図書館で180冊の所蔵が確認されている。本学所蔵本にはロレンツォ・デ・メディチの依頼によってボッティチェリが描いた下絵をアントニオ・ベッティーニが彫板した貴重な銅版画3葉が含まれている。

(3) 図書受入・検収業務

電子ブックの積極的購入推進の影響もあり、冊子の受入数は減少傾向にある。会計監査・内部監査で指摘があった業務フローの改善は、現行可能な範囲で全て適用し、順調に機能している。

(4) 雑誌受入・検収・整理業務

冊子体から電子媒体への移行や、インターネット公開されている雑誌の受入中止などに伴い、雑誌受入数は減少傾向にある。

NII 登録所蔵一括更新ほかの業務委託によるデータ整備も順調に実施している。

(5) 電子資料契約関連業務

長年の課題であった買切データベースの選定方法について、今年度、図書館資料の申込・選定・予算の枠組みの見直しを行い、業務の効率化を図った（「1.2 予算枠組み見直しの取り組み」を参照）。また上記枠組みの見直しにより、電子資料及び雑誌の管理、発注（電子ブックを除く）を電子資料契約担当で一元管理することになり、情報や知識を集約する形となった。

本学が契約するデータベースにおける利用規約違反（「1.3 電子資料の利用規約違反への対応」を参照）を受けて、再び同様の事案が起こらないよう学内各部署や図書館内各種 WG と調整して再発防止策を講じた。

また、前年度に引き続き、就職キャリア支援センターと共催で就活データベース講習会（オンライン）を開催した。春学期と秋学期に 3 日ずつ計 6 日開催し、延べ 1,672 名の参加があった。

(6) リポジトリ業務

2021 年度も継続して著作権者への許諾書発送及び許諾論文のメタデータ、PDF データの作成を業務委託により実施した。論文登録数は、紀要 528 件、博士論文 51 件、学術雑誌論文 12 件、その他 1 件であった。本年度も学内紀要発行部署と連携して、代行許諾・包括許諾化を推進した。2019 年にオープンアクセス方針が制定されたが、学内認知度を向上させ、学術雑誌論文のリポジトリ登録数を伸ばすことが課題である。

(7) システム関連業務

中央・和泉・生田図書館に設置している図書館利用者向け貸出用 PC のリプレースを実施した。情報担当理事の意見も踏まえ台数の最適化を検討し、リプレース前の 371 台から 349 台へ台数削減を行った。また、現場担当者の運用負荷を下げるべく、パソコンのイメージ更新など、メンテナンスの大部分をシステム担当にて実施する運用に変更した。各館担当者連携して滞りなくリプレースを完了でき、2022 年 4 月末時点で大きなトラブルなく運用できている。

長らく原因不明であった OPAC での資料取寄予約時の動作不具合について、閲覧部署の協力もあり原因を解明し改修を実施した。本学では、他館の所蔵本に限り取寄予約を行える運用としており、取置予約は受け付けていないため、利用者が受取館に資料の所蔵館を指定できないようカスタマイズしている。しかし、稀に取置予約（資料受取館が所蔵館と同一）のような予約データが発生することがあった。調査の結果、資料予約の度に同一セッション内で新規画面が開かれ、最新でない画面で特定のオペレーションで予約処理を進めると当該事象が発生することがわかった。同一セッション内では複数予約画面を開かず、既にある画面を更新するよう改修することで対応した。改修後は当該事象が発生した報告はなく、引き続き様子見としている。

蔵書点検用ハンディターミナル端末について、昨年度に引き続き新機種へのリプレースを実施した。昨年度運用テスト時の課題も解決し、各キャンパスへ配布を行った。業務効率が上がったとの報告を受けており、リプレースの効果を実感できている。

3.2 中央図書館事務室

中央図書館は、このコロナ禍による利用制限により、マスク着用や消毒による入館利用、学外者の入館利用不可、座席の間に間仕切りを新たに設置するなどして感染防止対策を講じ、開館時間は例年どおりの時間で開館し、昨年度のように開館時間を短縮することなく運用した。

2001 年に開館してから 20 年が経過し、施設の老朽化に対するメンテナンス対応も迫られている状況となっている。今後は、このようなコロナ禍により、足を運んでの図書館利用が難しい中での図書館利用の在り方として、家からでも利用できる図書館を意識していくため電子資料の充実を図っていくことが必要であると考えている。

また、中央図書館では、開架や書庫の書架狭隘化は喫緊の問題であり、抜本的に蔵書計画を見直し、外部倉庫の利用も含めて検討して進めていかなければならないと認識している。

業務体制は、専任職員 8 名、短期嘱託等 3 名、業務委託スタッフ〈統括・責任者含む〉 28 名（2022 年 3 月現在）により、通常業務に加え、コロナ禍における新しいサービスや館内利用において安全な環境づくりにも対応しながら運営した。

(1) 開館日数・入館者数等

2021 年度の開館日数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けることなく、予定どおり 333 日の開館となった。入館者数は、若干活動制限指針の影響もあったが、学内者（学生・教職員ほか）のみの利用で通常どおりのスケジュールで運用としたところ、昨年度比約 40% 増の 190,794 名となった。なお、新型コロナウイルス感染症の影響をあまり受けなかった 2019 年度と比較したところ、約 60% 減となった。

ローライブラリーの開室については、前年度はコロナ禍により 2020 年 4 月 8 日から 2021 年 3 月 31 日まで閉室としたが、2021 年 4 月 1 日より開室を再開し、中央図書館と同様通常どおりのスケジュールでの開館となった。

(2) 教育・研究支援

閲覧席は、2021 年度当初は昨年に引き続いて閲覧席等の間引き、グループ閲覧室の利用停止で運用していたが、大学の活動制限指針や新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら順次閲覧席の席数を増やし、マルチメディアエリアやグループ閲覧席なども利用できるようにした。なお、2021 年 4 月 1 日時点の閲覧席 577 席から、2022 年 3 月 31 日時点で 818 席へ利用拡充を行った。

新任教員ガイダンスは、昨年度に引き続いて新型コロナウイルス感染症の影響により開催は中止とし、各教員（33 名）へ個別に資料配布による対応となった。

中央図書館ガイダンス及びゼミツアーも、昨年度に引き続いて新型コロナウイルス感染症の影響により、原則としてオンラインでの対応となった。秋入学したガバナンス研究科の留学生への図書館ツアーについては、担当教員の強い希望により、図書館としても必要と考え別途対処することとした。

駿河台キャンパスでの全学共通総合講座「図書館活用法」（火曜 4 限）については、テーマによっては図書館職員が講師となり、昨年に引き続きオンライン授業による対応となった。

(3) 企画・展示

「1.4 読書人カレッジの開催」及び「2.13 書評コンテスト選考部会」を参照。

展示については、以下について中央図書館 1F 入館ゲート前に設置し展示を行った。

- 書評コンテスト関連の図書資料の展示：2021 年 7 月 1 日～2021 年 10 月 31 日
- 書評コンテスト受賞作品展示：2021 年 10 月 1 日～2022 年 5 月 31 日
- 明治大学シェイクスピアプロジェクトとコラボしたシェイクスピアに関する図書資料の展示：2021 年 10 月 1 日～2021 年 11 月 29 日
- 明治大学環境展に併せた環境に関する蔵書のミニ展示：2021 年 12 月 22 日～2022 年 3 月 1 日

また、図書資料に付属している帯を利用した「帯 de 推し！」及び『明治大学広報』の「本棚」欄へ掲載された図書の展示を昨年度に引き続き実施し、所蔵資料の利用促進を図った。別途、大学創立 140 周年記念広報事業として、杉原厚吉研究特別教授監修の「立体錯視の不思議を知ろう」の特別展示（2021 年 5 月 11 日～7 月 20 日）について、図書館が協力し展示室を提供した。

(4) 施設・設備

旧和装本コーナー（現研究棟 1 階書庫コーナー）は図書館総務事務室内にあるため、通年で温湿度が比較的高く、また外部との出入口に近いこともあり資料にカビが付着しやすい。資料のカビの発生を抑制するため、研究棟 1F の旧和装本コーナーに小型サーキュレータを 3 台設置した。

新規に入館ゲート前及び入館ゲート正面にインフォメーションボードを設置し、学生証の貸し借りによる入館禁止、工事実施、飲食及び館内での撮影がある旨の注意点や図書館の催しものなどについて告知している。

学生による図書館内でのスマートフォンや PC の利用が増えたことに伴い、無線 LAN アクセスポイントを地下 1 階雑誌カウンター前、地下 2 階カウンター前、地下 3 階自動書庫、研究棟地下 2 階書庫、研究棟地下 3 階書庫に新規に設置した。

(5) 蔵書

選書については、「2.19 中央学習用図書選書分科会」を参照。

除籍については、書架狭隘化が喫緊の課題となっているため、昨年度から引き続いて外部倉庫の導入を次年度の計画として準備したが、今回も予算が付かなかった。引き続き検討を行っていく。

【2021 年度除籍（固定・簿外）】

第 1 回 5,949 冊（和図書：4,556 冊、洋図書：1,393 冊）

第 2 回 9,234 冊（和図書：9,184 冊、洋図書：50 冊）

大規模な書架移動においては、B1 書庫と和装本コーナーの入れ替え作業及び地図室資料の棚修理に伴う再配架作業を行った。

生田図書館保存庫に移した中央図書館旧蔵資料を現地へ出向いて現物資料を確認し、生田保存書庫配架の進め方や除籍作業、中央図書館に所蔵している「震災本」の生田保存書庫への移動について検討を行った。

(6) 社会連携・地域貢献

「1.1 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応（1）開館日数・入館者数等」を参照。

(7) 上記以外の特記事項

●コロナ禍における図書館利用者アンケートの実施

中央図書館事務室が中心となり、コロナ禍における図書館全体の利用アンケートを以下の要領にて実施した。その結果、コロナ禍に特別に実施した図書館内の感染症対策や、郵送サービス、オンライン情報源等の全項目において、概ね満足とやや満足で占める結果となった。また、自由記述欄については、各図書館へフィードバックし、各事務室での検討課題事項とした。

実施期間 2021 年 10 月 1 日から 10 月 30 日

評価対象期間 2021 年 4 月から 9 月まで

回答対象者 学部生・大学院生・教員

設問数 2 問

回答数 1,359 名（学部生全体 3.2%、大学院生全体 5.8%、教員全体 6.1%が回答）

3.3 和泉図書館事務室

2021 年度は、対面授業を中心に通学を前提とした授業運営に切り替えていくとの学内方針であったことから、図書館の開館スケジュールはコロナ禍以前と同様にすることとし、館内利用についても感染拡大防止策を講じながら、徐々に通常の運用に戻した。

(1) 開館日数・入館者数等

開館スケジュールが戻ったことで、開館日数は 2019 年度以前と同程度の 323 日となった。ただ、感染拡大に伴う緊急事態宣言が 2 回発出され、その都度、学内の活動制限指針レベルが上がったこと、また、地域住民、校友などの学外者の利用は引き続き制限したことなどから、総入館者数は 2019 年度の約 47% に止まった。

(2) 教育・研究支援

学内の多くのガイダンスがオンライン形式となり、図書館においても、利用案内、資料検索等のオンラインコンテンツを年度始めに用意し、学生、教員に提供した。また、館内におけるカウンターサービス、TA によるレポート作成支援は、感染拡大防止に努めながら実施し、在宅受講特別配慮者に対しては、郵送での資料貸出、複写物の送付を行った。

(3) 企画・展示

新型コロナウイルス感染症の感染者動向を見ながらの運営となり、比較的状況が落ち着いた秋から初冬を中心に、ギャラリーでの展示、読書推進企画を行った。全館共同開催の読書人カレッジでは、和泉の学生の参加が多いことから、11、12 月は、館内ホールを会場にハイフレックス型で実施した。また、コロナ禍で需要が高まった電子ブックについては、年間を通じて館内で使い方、新着タイトルを紹介するとともに、分野ごとの所蔵状

況を確認のうえ発注を行うなどしてタイトルの充実化を図った。

(4) 施設・設備

春学期の試験期までに、パーティションの設置、座席の配置見直しにより、大方の閲覧席の利用を可能にした。4階フロアについては、従来、パソコンの利用を禁じていたが、多くの学生がオンライン授業を受講しているため、利用者を分散させることを目的に約半分を利用可能エリアとし、無線LANアクセスポイントを増設した。また、リース期限に伴い館内貸出パソコンのリプレースを行ったが、オンライン授業で多くの学生がノートパソコンを持ち込むようになり利用数が大きく減っているため、台数については少し削減し、次回に向けて利用状況を見守ることとした。

(5) 蔵書

例年どおり、蔵書点検、除籍処理をそれぞれ年2回行った。そのほか行った主な作業は以下のとおりである。

- 江波戸コレクションの音楽関係資料について、2018年度に作成した指針に基づき、整理準備作業を進めた。
- 生田保存書庫に仮置きしていた蔵書の配架変更等の作業を進めるとともに、2024年度までに完了させるべく計画を見直した。
- 書庫資料について、2022年2月に専門業者による除菌清掃作業を実施した。
- 開架レファレンス資料について、書架移動、除籍、電子化を進め、配架状況の改善を図った。

(6) 社会連携・地域貢献

感染者動向から地域住民の利用、地元中学生の職場体験の再開は見送った。杉並区図書館ネットワークにおいては、杉並区立図書館からの提案により、11月に同区中央図書館にて協定大学図書館の紹介パネル展示が行われた。

(7) 上記以外の特記事項

レファレンスカウンターにおける安定したサービス提供を念頭に、専任職員、非専任職員、業務委託先合同での著作権法に関する取扱いの確認、業務帳票の見直しなどを行った。また、館内サロンは、コロナ禍でカフェ業者が撤退し、和泉学生支援事務室管理の下、当面は学生の食事場所等として運営されることとなった。

3.4 生田図書館事務室

生田図書館は、緑豊かな多摩丘陵高台にある生田キャンパスの東側中央に位置する。同キャンパスでは、理工学部・農学部の授業・実験等の教育・研究展開により、学生が長時間キャンパスに滞在しており、その教育・研究支援並びに終日滞在型キャンパスライフスタイルの快適性・利便性支援の一翼を担うのが生田図書館である。2021年度は新型コロナウイルス感染拡大防止策を取りながら、学修支援、教育支援、研究支援を行った。

(1) 開館日数・入館者数等

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響なく開館することができ、開館日数は2019年度とほぼ同じ338日だった。明治大学活動制限指針に伴い、学外者は入構が認められていないことから図書館の利用も認められず、学生、教職員のみ利用となった。そのため、2021年度の入館者数は、122,030名となり、2019年度比約46%減であった。

(2) 教育・研究支援

2021年度の新入生図書館ガイダンスは新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から行わず、『図書館利用案内』、『らいぶ』のみの配布にとどめた。新任教員ガイダンスは資料配付のみとし、2020年度に引き続き「スタンプラリー」「フリー図書館ツアー」は中止とした。

図書館ゼミガイダンスは、教員からの申込みによりゼミ授業内で実施しているが、2021年度はオンライン教材を提供し、その中でOPAC検索、各種データベース検索など図書館利用について説明を行った。ガイダンス実施は13件（理工学部7件、農学部6件）であった。

また、2021年度も農学部からの依頼により、食料環境政策学科の初年次教育科目「基礎ゼミ」（受講者146名）には対面にて授業（「図書館利用法と新聞記事検索演習」、「図書館を活用したレジュメ・レポート作成と文献検索演習」の2コマ）を実施し、農学科の「農学基礎実験」（受講者150名）には、オンライン教材（図書館

館内ツアー、OPAC・CiNii・新聞記事検索)を提供し、館内ツアーは教員が行った。

その他、オンラインで外部講師により「SciFinder-n (2回)」「Web of Science (2回)」「JDream III」「ScienceDirect」「Scopus」「Mendeley」の講習会を実施するとともに、「スマホ就活情報収集講座(生田就職キャリア支援事務室との連携)」をオンラインで開催した。

(3) 企画・展示

2021年度生田図書館 Gallery ZERO の展示企画については、2020年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からギャラリーを閉室とした。またギャラリーを利用する「ココスパ」についても同様に中止とした。

●特集コーナーの企画

期間毎に設定したテーマについて関連資料を「新着図書コーナー」隣の書架に配架し、利用者に読書に親んでもらう機会とした。2021年度は以下の6企画を実施した。2020年度から「ナラベル」を使って、オンラインでの図書の紹介を行った。また、「オススメ本棚コーナー」として、生田就職キャリア支援事務室と共同で『キャリア本!』と題し、就職活動に関連する図書の展示企画を行った。この他、図書館実習生による『オススメ本棚』(9/22～10/22)を展示した。

- 1 4/1～5/31 ようこそ明治大学!
一校友(卒業生)を始めとする多くの本も皆さんを歓迎しますー
- 2 6/1～7/20 「『謎』×『ミステリー』我々が暮らす地球上には、まだ解明されていない不思議がいっぱい。全ての謎を解き明かそう!!」
- 3 7/21～9/30 「緑陰図書(教職員・図書館スタッフおすすめ本)」
- 4 10/1～11/30 『芸術』×『スポーツ』
- 5 12/1～2022/1/31 「〇〇のすすめ」
- 6 2/1～3/31 「今さら聞けないSDGs」

●読書のススメ(本への誘い)コーナーの企画

新聞見出しに頻出する記事やWEBでの話題から生田図書館の蔵書をピックアップし、学生の読書へのきっかけを提供した。2021年度は以下の14企画を実施した。また、「本への誘いコーナー」の総まとめとして年度末(2022/3/1(火)～4/30(土))にギャラリー前室にて全企画の図書リストとともに展示を行った。

1	4/2～4/23	『ストレス解消』	8	9/24～10/15	『照明デザイン』
2	4/23～5/21	『動物園水族館行くならどっち?』	9	10/15～11/12	『言の葉・ことのは』
3	5/21～6/11	『横に長い本』	10	11/12～12/3	『整理術』
4	6/11～7/2	『今こそ身につけたい金融リテラシー』	11	12/3～12/24	『文章の書き方』
5	7/2～7/22	『ねむり』	12	12/24～2022/1/28	『脳の活性化を図る』
6	7/22～8/27	『パソコンスキル』	13	1/28～2/25	『星座と神話』
7	8/27～9/24	『「食べる」を考える～からだのために』	14	2/25～3/25	『ビジネス・リーダーは語る』

●特設コーナーの企画

1	4/2～5/29	『2021年本屋大賞』	5	11/21～2022/1/13	『アニメ化作品小説』
2	6/1～7/6	『探偵小説』	6	1/14～2/10	『第166回直木賞・芥川賞』
3	7/7～9/18	『第165回直木賞・芥川賞』	7	2/14～3/31	『人の骨と生き物の骨』
4	9/19～11/21	『SF・ファンタジー小説』			

(4) 施設・設備

1階第4開架閲覧室の湿度対策として、除湿器を3台追加で設置し、既存の1台を加えた4台を稼働させ、適切な湿度管理を行えるよう整備した。また空気清浄器を2台設置し、カビ発生抑止対策を実施した。この他、生田保存書庫資料の保存対策の一環として、年度末に地下2階保存書庫の一部のエリアを対象に除菌・薬剤散布作業を実施した。

(5) 蔵書

年2回の蔵書点検及び除籍処理を行っている。除籍の詳細は次のとおり。

【2021年度除籍（固定・簿外）】

第1回 3,242冊（固定：2,631冊、簿外：611冊、保存書庫：なし）

第2回 9,875冊（固定：4,114冊、簿外：4,494冊、保存書庫：1,267冊）

2025年度からの生田キャンパス第二中央校舎（仮称）への図書館移転に際し、第4開架閲覧室資料の一時移転が必要となる。移転先候補を保存書庫とすることについて、各館と協議した結果、理解を得られたことから、保存書庫における重複本の抽出と除籍作業を推進することを確認した。

また、長年懸念であった新書・文庫コーナーの狭隘化の解消のため、新書・文庫の継続購入の見直しを行い、他館との重複分を中心に除籍を進めた。

(6) 社会連携・地域貢献

2014年1月に川崎市立多摩図書館長の呼びかけで始まった「多摩区3大学（明治大学、専修大学、日本女子大学）図書館・川崎市立多摩図書館連携状況連絡会議」は、2021年度は以下の日程で2回開催された。

第1回 7月14日（水） 会場：川崎市立多摩図書館

第2回 2022年3月18日（金） メール会議

なお、日本女子大学西生田キャンパスが2021年4月に目白キャンパスへと移転したため、川崎市立多摩図書館、専修大学及び本学の3者で進めた。

3.5 中野図書館報告

2021年度、中野図書館は開館から9年目を迎えた。主に、国際日本学部、総合数理学部と国際日本学研究科、先端数理科学研究科の利用者の学習・研究の支援を行っている。明治大学図書館の中では一番小さな図書館であるが、他の図書館にはないマンガ・アニメ関連の蔵書や国内外の写真集コレクションなど揃えている。

業務体制は、専任職員2名、嘱託職員1名、派遣職員1名、業務委託スタッフ10名で運営した。2021年度も感染対策の一環として、閲覧席やカウンター周辺、事務室内の定期的な消毒作業を毎日実施した。

(1) 開館日数・入館者数等

2021年度の開館日数は332日（2020年度は237日）であった。休暇中の日曜日、全学部統一入試の当日及び前日を休館日としている。

入館者数は49,233人（2020年度9,552人）であり、1日平均148人であった。オンライン授業が多数、実施された影響もあり入館者数は多くはないが、パソコン利用可能閲覧席でオンライン授業を受講している学生が多くみられた。貸出冊数については、2020年度は7,708冊だったが、対面授業が増えて来館者が多くなったこともあり19,955冊だった。

(2) 教育・研究支援

図書館ゼミガイダンスについては、対面実施とオンライン動画提供の2種類を準備し、中野キャンパス所属教員へ案内したところ、春学期は12件（対面8件、動画4件）、秋学期は1件（対面0件、動画1件）の希望があった。対面実施の感染対策として、学生の参加人数を10名以下とし、館内ツアーはパワーポイントでの説明に変更した。また、国際日本学部イングリッシュトラックの新生向けに図書館ガイダンスの要望があったため対面で実施した。ILLの処理件数については2020年度と比較して、貸借受付（31件→51件）と複写依頼（139件→264件）が特に増加した。

(3) 企画・展示

イベントについては、2年ぶりに春・秋学期にクイズラリーを実施した。図書館内のポイントをめぐるながら図書館に関するクイズに回答する企画で新生を対象とした。秋学期については夏季休暇中に受け入れた司書課程の実習生にクイズを考えてもらい、学生ならではのアイデアを反映した。11月には2冊の本が入った「としょかん福ぶくる」を実施した。自分では選ばないテーマの本に触れられるのもこのイベントの面白さとなっている。12月には、こちらも2年ぶりのイベントである「あなたの推し本教えてください！」を実施した。今回は来館型に加えアンケートフォーム型の参加方法も用意した。来館型よりは少なかったが手軽に参加でき

るイベントの手段として効果はあった。

読書推進活動としては、図書館スタッフが作成する「おすすめ本棚」の展示を 23 回行った。来館した学生に多くの読書情報を提供するため頻りに展示替えを行った。また、図書館全体のイベント関連図書や中野図書館の資料紹介としてミニ展示コーナーの展示も行った。展示については Oh-o!Meiji や Twitter、Web 本棚ナラベルを使って広報した。

(4) 施設・設備

対面授業の再開に伴い利用可能閲覧席を増やした。最終的には 111 席を利用可能としたが、オンライン授業の影響によりパソコン利用可能閲覧席の利用が多かったため、パソコン利用不可閲覧席 30 席を可能席へと変更した。

館内に設置しているデジタルサイネージ 2 台（レファレンスカウンター横と閲覧席奥）に不調が生じ、閲覧席奥のデジタルサイネージは現在、使用不能となっている。また、カウンター前にある OPAC とデータベースパソコンを設置している台の照明や電源が不安定になるなど、開館して 9 年目の館内施設・設備に劣化がでてきている。

(5) 蔵書

2022 年 3 月 31 日現在の中野図書館蔵書数は 58,189 冊（簿外図書も含む）であった。収容可能冊数を超えているが、書架狭隘化対策として 2016 年度から行っている生田保存書庫への移転については、生田新図書館建設関係により 2021 年度は実施しなかった。オンライン授業の需要もあり、書架狭隘化解消の一助となるため電子ブックを積極的に発注した。

(6) 社会連携・地域貢献

中野区立中野図書館へ大学刊行物を不定期に送付している。また、受験生などキャンパス見学希望者には図書館内への自由見学を受け入れた。